

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜
自己評価作成日	平成 24年 6月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建っており、近くに保育園があります。海や山も近く、自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間が自由に行き来ができて、普段から交流を持たれています。ホームは総合福祉施設の1事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得れる等、日常的に連携がとれています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四方を山と海に囲まれ、自然豊かな環境に立地した総合施設の1階にあるこの事業所は、清掃が行き届いて清潔感があり、明るく広い共用スペースからは中庭の緑を眺めることができる。利用者は眼下に広がる宇和海の潮風と波の音を聞きながらゆったりと時間を過ごすことができる。法人は各種勉強会など資質向上に特に力を入れており、職員は個々に目標を持ち日々自己研鑽に努めている。立地上災害対策が必須な場所であるが、地域や国の協力体制もあり、法人、事業所ともに頻繁に訓練を行い、防災に対する備えに取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

事業所名	グループホーム瀬戸あいじゅ
(ユニット名)	汐風
記入者(管理者)	
氏名	居村 奈美
評価完了日	平成24年 6月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合っ決めて理念を共有し、実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。また、行動目標を掲げ、職員一人ひとりが目標を持ち、いつでも見ただけのように掲示している。	
			(外部評価) 法人の基本理念と基本方針は朝のミーティング時に唱和している。事業所独自の目標と職員個々の目標を共用スペースに掲示し、常に意識付けをしている。勉強会を開催し、施設長と管理者は話し合いの機会を設け、より質の高いケアを追求している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流はあまりできていないが、施設全体での行事や、地域のお祭りやお盆などへの参加などでの交流がある。6月より、地元の中学生の毎月の訪問が決まっている。	
			(外部評価) 近隣の小中学校や保育所からの訪問、地域行事への参加を通じて交流の機会がある。法人全体や事業所で行う行事には地域住民や家族に参加してもらい、つながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、意見の交換をすることで理解していただけるように努めている。家族様には密に連絡を取り合うことで、理解を深めていただいていると思われる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では年間計画を立て、それを基に実施している。近況報告を行ったり、取り組みのテーマに沿った話し合いだけでなく、運営推進委員からの意見や家族の要望などを聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行うことでサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の機会を有効に利用し、取り組むべき事項の年間計画を立てている。会議では報告のほか、防災の勉強会など参加者の活発な相互交流がある。幅広い意見を取り入れられるように毎回参加する職員を変えている。季節行事に合わせて開催したり、談話室の共有スペースで事業所の日常を観察しながら開催する等、会議が単調にならない工夫がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居者の入退所や介護認定の更新の際、情報を共有したり、事故防止などの取り組みで、連携を取っている。毎月の介護相談員の受け入れや意見交換等も行っている。</p> <p>(外部評価) 日頃から連絡を密にとり、相談や情報提供を必要に応じて行っている。運営推進会議を通じて事業所の実情やサービスの取り組みを伝えたり、防災等について具体的なアドバイスをもらうなどの連携があり、良好な関係が構築されている。月に1回介護相談員の訪問があり、入居者との馴染みの関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止のマニュアルを作成し、勉強会を開催することで理解を深め、職員全体で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて法人内に委員会が設置され、会議の議事録を全職員に回覧し法人をあげて取り組んでいる。事業所内でも勉強会を開催している。玄関、居室の施錠はせず、利用者の外出に対しては見守りながら対応している。日々のケアの中で声かけや言葉遣いにも配慮があり、気づいた点は職員同士で話し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成し、それを基に勉強会を行い、職員一人ひとりが理解している。身体の虐待だけではなく、言葉によるものや無視も虐待にあたるということを、職員同士が声をかけ合いながら注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議において、地域包括支援センターの職員に講和をしていただいたり、3月に勉強会を開き、職員の理解を得られた。今後は、新しい職員への勉強会を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項の説明を十分に行っている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね、それに対する十分な説明を行い、理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、発送時に意見や要望を記入できる介護計画確認書を同封している。疑問・要望は介護計画に反映するように努め、職員間で話し合いをしている。家族とは、密に連絡を取ることで、意見や要望が言い易いようにしている。また、管理者や職員の異動があった際には、報告している。	
			(外部評価) 家族へは、2か月毎に写真と介護計画、職員の異動等の報告を送って信頼関係を築いている。家族の意見や要望が書き込める介護計画確認書の送付や、意見箱の設置、日常の密な連絡、面会時の話しやすい雰囲気づくりなど、意見を聞く機会を増やし運営に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等、施設全体で話し合えるような仕組みを作っている。職員が管理者に気づいたことを言える雰囲気を作っている。施設長による個別面談も行われている。	
			(外部評価) 管理者は職員が気軽に発言しやすい雰囲気を大切にしており、月1回の職員会でも意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案の中で事業所内で解決できないことは、法人の主任会で協議され運営に反映している。施設長と職員の個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、施設長・管理者による面談を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から、本人とゆっくり話しができる時間をもち、本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で、家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時に本人、家族の要望を聞き、法人全体や他業種の方々に意見を聞きながら、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意し、声かけや対応を行っている。料理、園芸、行事などについていろいろな助言をいただいたり、昼食も一緒に摂っている。一緒に行うことにより、学ぶことも多く、共に支える関係を築くように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族と話し合う機会を設けたりして、一緒に本人を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の馴染みの人との関係が途切れないように家族に協力していただき、自宅への外出や外泊を行っている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。	
			(外部評価) 友人や知人の訪問など在宅生活で築いた人間関係が継続できるよう支援している。法人内事業所間での交流もあり新たな馴染みの関係も大切にしている。家族に協力してもらい馴染みの場所への外出や外泊支援を行っている。面会では、くつろいだ雰囲気の中ゆっくり時間を過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 移動時に一緒に行かれたり、車椅子を押して下さったり、食事・おやつ時に声をかけ合ったりされ、利用者同士支え合っている。会話が噛み合わなかったり、気分を損ねたりした時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要になった場合でも利用者の移り住むことへのダメージを最小限に食い止めるために、移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続性等に配慮してもらえるように働きかけている。サービスが終了した後も、相談や支援に応じている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望・要望を取り入れている。本人から聞くことが困難な時は、家族と相談したり、利用者の立場になって検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族から入居前の生活歴及び入居後の希望や意向を聞き取り、日常の生活の中で知り得た細かな情報は個別ケース記録にまとめて、ミーティング時に周知する等、職員で共有している。思いを伝える事が困難な利用者は、日常の表情や態度で気持ちをくみ取るよう心がけて、家族と相談しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を本人・家族に詳しく聞き把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見・要望を聞いたり、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 3か月毎にサービス担当者会議を開催し、利用者や家族の希望を確認し介護計画の作成、見直しを行っている。介護計画に沿った支援を日々記録し、担当者が1か月毎に評価を行っている。細かなモニタリングができるよう、評価様式を改善するなど工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜勤間の引継ぎを十分に行い、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもあり、グループホームでの生活が困難になった場合には、家族と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいている。また、散歩に出たとき等、地域の方とお話しをしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異変 時には主治医と家族に聞き対応している。かかりつけ 医以外の受診は、家族が対応しているが、困難な時は 職員が受診に行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を聞き、家族の協力を得ながら馴 染みのかかりつけ医への受診が継続できるよう支援し ている。2週間毎に協力医療機関による往診もある。 個々の希望に沿った医療機関を把握し、必要な医療が 適切に受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームとの併設のため、看護職員に相談 したり診てもらっている。また、2週間に1回の定期 回診には、看護職員にも立ち会ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護 師に状態を聞き、早期退院ができるように医療機関と の情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在は看取りはしていない。重度化した場合には、些 細なことでも家族に連絡している。	
			(外部評価) 看取りは行っていないが、入居時に事業所の方針を利用 者や家族に十分説明し理解を得ている。早い段階か ら、状態の変化に応じて家族との話し合いを重ねて、 納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼ってある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者が非難できる方法を身につけている。毎月1回の避難訓練を実施している。火災だけではなく、津波が来たときの非難訓練も行っている。	
			(外部評価) 災害時の対応がマニュアル化され、毎月、利用者も参加して各種災害を想定した避難訓練を実施している。年2回の町内全域の地震避難訓練にも参加し、今後は大規模な原子力防災訓練が予定されている。玄関にはヘルメットや担架、災害袋などの防災用品が備えられ、緊急時に備えた車両も配置されている。災害時には近隣の企業による協力体制がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際は、ノックや声かけをし本人の了解を得て訪室するようにしている。個人情報、ワーカー室に保管し、破棄する際は、シュレッダーにかけるなど注意をはらっている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態を理解し、個人の尊厳を大切に考えている。接遇面や声かけの方法について、プライバシーに配慮した対応ができるようケアの質の向上に取り組んでいる。個人情報のある書類等は鍵付きの書庫に保管するなど慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、できるだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけも決めつけるような言葉使いはせず、本人が理解した上で、決めていただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは、家族に相談し持って来ていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため、献立は栄養士が立てている。調理の準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。畑やプランターで出来た野菜と一緒に料理して、季節感を味わっていただいている。一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるように支援している。また、足元が安定している方には、下膳をしてもらっている。	
			(外部評価) 総合施設内の栄養士が献立を作成し、調理は事業所でユニットごとに行っている。下ごしらえや下膳等、利用者ができることは一緒に行い、職員も同じものを食べている。使い慣れた食器やランチョンマットを使用し、バーベキューやそうめん流し等をするなど、食事が利用者の楽しみにつながるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事量を把握している。食事量が減ってきている方には、食事形態を改善したり、主治医・栄養士・家族に相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行い預かっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗した時でも、本人が傷つかないように配慮しながら対応している。	
			(外部評価) 適切な排泄介助を行うために、一人ひとりの細かな排泄のパターンや習慣を把握し、必要に応じて誘導表を用い日常のケアに活かしている。異食行動が見られる利用者は家族と相談し、夜間のみおむつを使用している。職員は見守りや声かけをさりげなく行い、転倒防止などリスク面も考慮しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には、水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に相談しながら、緩下剤でのコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前に、バイタルチェックを行い、体調の良い日は本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日は、シャワー浴・足浴・清拭等、利用者個々の状態に応じて支援している。夜間は事故防止の観点から入浴は実施していない。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望を考慮しながら支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけのタイミングや誘導方法を工夫したり、シャワー浴や清拭、足浴など個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬・服薬忘れのないように気をつけている。一人ひとり個別の袋に入れ、服薬時には袋の名前と中身を声に出して確認し、服薬していただいている。薬の変更時には、引継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫している。また、本人の要望を聞き、足湯や外食へも出かけている。	
			(外部評価) 事業所周辺を散歩したり、買い物等で戸外に出かけるなど日々の生活で外出できる機会を増やすよう支援している。地域の祭りへの参加や、近くの温泉での足浴、普段行けない遠方での外食等、個々の希望にそった支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で小額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が保管しているが、外出時には自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人の希望のある時に支援している。また、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節が分かるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁飾りなどを作成したり、居心地良く過ごせるように、利用者の希望を取り入れている。また、畳の間では、冬はコタツも置かれている。デイサービスを利用されている方と将棋を楽しんだり、思い思いの場所で過ごされている。</p> <p>(外部評価) 共用空間はゆったりとしたスペースが確保され、清掃が行き届き季節の草花が飾られている。家具等の配置も安全面に配慮されている。ユニット間は自由に行き来でき、利用者や家族が利用できる談話室や畳スペースが設けられている。窓からは宇和海を眺められ、中庭にはウッドデッキがあり外気浴や家庭菜園を楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにはソファや畳の部屋があり、それぞれの場所で利用者同士がお話しをされている。また、浜風ユニットより来られた利用者が、気の合った方や職員との会話を楽しまれている。両ユニットの交流の場になっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安らぎを得るような馴染みのものが、環境作りや生活をしていく上で欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が使い慣れた家具や家電、食器等を自由に持ち込むことができる。利用者は居室で草花を育てたり、趣味の音楽鑑賞を楽しむなど、自宅のように居心地よく過ごせるよう工夫を凝らしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々の能力や状況に合わせた、環境整備に作りに努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を除けるよう支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜
自己評価作成日	平成 24年 6月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建っており、近くに保育園があります。海や山も近く、自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間が自由に行き来ができて、普段から交流を持たれています。ホームは総合福祉施設の1事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得れる等、日常的に連携がとれています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四方を山と海に囲まれ、自然豊かな環境に立地した総合施設の1階にあるこの事業所は、清掃が行き届いて清潔感があり、明るく広い共用スペースからは中庭の緑を眺めることができる。利用者は眼下に広がる宇和海の潮風と波の音を聞きながらゆったりと時間を過ごすことができる。法人は各種勉強会など資質向上に特に力を入れており、職員は個々に目標を持ち日々自己研鑽に努めている。立地上災害対策が必須な場所であるが、地域や国の協力体制もあり、法人、事業所ともに頻繁に訓練を行い、防災に対する備えに取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)  
氏名 居村 奈美

評価完了日 平成24年 6月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員で話し合っ決めて理念を共有し、実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。また、行動目標を掲げ、職員一人ひとりが目標を持ち、いつでも見ただけのように掲示している。</p> <p>(外部評価) 法人の基本理念と基本方針は朝のミーティング時に唱和している。事業所独自の目標と職員個々の目標を共用スペースに掲示し、常に意識付けをしている。勉強会を開催し、施設長と管理者は話し合いの機会を設け、より質の高いケアを追求している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的な交流はあまりできていないが、施設全体での行事や、地域のお祭りやお盆などへの参加などでの交流がある。6月より、地元の中学生の毎月の訪問が決まっている。</p> <p>(外部評価) 近隣の小中学校や保育所からの訪問、地域行事への参加を通じて交流の機会がある。法人全体や事業所で行う行事には地域住民や家族に参加してもらい、つながりを深めている。</p>	近隣の住民が少ないなど難しいところもあるが、来年度は開設から10年を迎えるので、改めて地域の一員として貢献できることを検討するなど、交流の幅を広げる取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、意見の交換をすることで理解していただけるように努めている。家族様には密に連絡を取り合うことで、理解を深めていただいていると思われる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では年間計画を立て、それを基に実施している。近況報告を行ったり、取り組みのテーマに沿った話し合いだけでなく、運営推進委員からの意見や家族の要望などを聞いている。それを職員会で報告し、話し合いを行うことでサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の機会を有効に利用し、取り組むべき事項の年間計画を立てている。会議では報告のほか、防災の勉強会など参加者の活発な相互交流がある。幅広い意見を取り入れられるように毎回参加する職員を変えている。季節行事に合わせて開催したり、談話室の共有スペースで事業所の日常を観察しながら開催する等、会議が単調にならない工夫がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居者の入退所や介護認定の更新の際、情報を共有したり、事故防止などの取り組みで、連携を取っている。毎月の介護相談員の受け入れや意見交換等も行っている。</p> <p>(外部評価) 日頃から連絡を密にとり、相談や情報提供を必要に応じて行っている。運営推進会議を通じて事業所の実情やサービスの取り組みを伝えたり、防災等について具体的なアドバイスをもらうなどの連携があり、良好な関係が構築されている。月に1回介護相談員の訪問があり、入居者との馴染みの関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止のマニュアルを作成し、勉強会を開催することで理解を深め、職員全体で取り組んでいる。玄関の入り口については日中は開放している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて法人内に委員会が設置され、会議の議事録を全職員に回覧し法人をあげて取り組んでいる。事業所内でも勉強会を開催している。玄関、居室の施錠はせず、利用者の外出に対しては見守りながら対応している。日々のケアの中で声かけや言葉遣いにも配慮があり、気づいた点は職員同士で話し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成し、それを基に勉強会を行い、職員一人ひとりが理解している。身体の虐待だけではなく、言葉によるものや無視も虐待にあたるということを、職員同士が声をかけ合いながら注意し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議において、地域包括支援センターの職員に講和をしていただいたり、3月に勉強会を開き、職員の理解を得られた。今後は、新しい職員への勉強会を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項の説明を十分に行っている。利用者や家族の不安や疑問を尋ね、それに対する十分な説明を行い、理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、発送時に意見や要望を記入できる介護計画確認書を同封している。疑問・要望は介護計画に反映するように努め、職員間で話し合いをしている。家族とは、密に連絡を取ることで、意見や要望が言い易いようにしている。また、管理者や職員の異動があった際には、報告している。 (外部評価) 家族へは、2か月毎に写真と介護計画、職員の異動等の報告を送って信頼関係を築いている。家族の意見や要望が書き込める介護計画確認書の送付や、意見箱の設置、日常の密な連絡、面会時の話しやすい雰囲気づくりなど、意見を聞く機会を増やし運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等、施設全体で話し合えるような仕組みを作っている。職員が管理者に気づいたことを言える雰囲気を作っている。施設長による個別面談も行われている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員が気軽に発言しやすい雰囲気を大切にしており、月1回の職員会でも意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案の中で事業所内で解決できないことは、法人の主任会で協議され運営に反映している。施設長と職員の個別面談の機会もある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 自己評価や、施設長・管理者による面談を行い、一人ひとりの個性や能力の把握に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるように努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 見学の段階から、本人とゆっくり話しができる時間をもち、本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大事にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で、家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時に本人、家族の要望を聞き、法人全体や他業種の方々に意見を聞きながら、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように注意し、声かけや対応を行っている。料理、園芸、行事などについていろいろな助言をいただいたり、昼食も一緒に摂っている。一緒に行うことにより、学ぶことも多く、共に支える関係を築くように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回の便りで状況をお伝えしたり、面会に来られた際に家族と話し合う機会を設けたりして、一緒に本人を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の馴染みの人との関係が途切れないように家族に協力していただき、自宅への外出や外泊を行っている。また、馴染みのある方が訪問しやすい環境に努めている。	
			(外部評価) 友人や知人の訪問など在宅生活で築いた人間関係が継続できるよう支援している。法人内事業所間での交流もあり新たな馴染みの関係も大切にしている。家族に協力してもらい馴染みの場所への外出や外泊支援を行っている。面会では、くつろいだ雰囲気の中ゆっくり時間を過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 移動時に一緒に行かれたり、車椅子を押して下さったり、食事・おやつ時に声をかけ合ったりされ、利用者同士支え合っている。会話が噛み合わなかったり、気分を損ねたりした時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住み替えが必要になった場合でも利用者の移り住むことへのダメージを最小限に食い止めるために、移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続性等に配慮してもらえるように働きかけている。サービスが終了した後も、相談や支援に応じている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望・要望を取り入れている。本人から聞くことが困難な時は、家族と相談したり、利用者の立場になって検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族から入居前の生活歴及び入居後の希望や意向を聞き取り、日常の生活の中で知り得た細かな情報は個別ケース記録にまとめて、ミーティング時に周知する等、職員で共有している。思いを伝える事が困難な利用者は、日常の表情や態度で気持ちをくみ取るよう心がけて、家族と相談しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を本人・家族に詳しく聞き把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録をこまめにし、把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見・要望を聞いたり、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 3か月毎にサービス担当者会議を開催し、利用者や家族の希望を確認し介護計画の作成、見直しを行っている。介護計画に沿った支援を日々記録し、担当者が1か月毎に評価を行っている。細かなモニタリングができるよう、評価様式を改善するなど工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜勤間の引継ぎを十分に行い、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設ということもあり、グループホームでの生活が困難になった場合には、家族と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいている。また、散歩に出たとき等、地域の方とお話しをいただいている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に1回、定期回診を支援している。また、異変 時には主治医と家族に聞き対応している。かかりつけ 医以外の受診は、家族が対応しているが、困難な時は 職員が受診に行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を聞き、家族の協力を得ながら馴 染みのかかりつけ医への受診が継続できるよう支援し ている。2週間毎に協力医療機関による往診もある。 個々の希望に沿った医療機関を把握し、必要な医療が 適切に受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームとの併設のため、看護職員に相談 したり診てもらっている。また、2週間に1回の定期 回診には、看護職員にも立ち会ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護 師に状態を聞き、早期退院ができるように医療機関と の情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在は看取りはしていない。重度化した場合には、些 細なことでも家族に連絡している。	
			(外部評価) 看取りは行っていないが、入居時に事業所の方針を利用 者や家族に十分説明し理解を得ている。早い段階か ら、状態の変化に応じて家族との話し合いを重ねて、 納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防の救急実技の講習を受けるようにしている。緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼ってある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者が非難できる方法を身につけている。毎月1回の避難訓練を実施している。火災だけではなく、津波が来たときの非難訓練も行っている。	
			(外部評価) 災害時の対応がマニュアル化され、毎月、利用者も参加して各種災害を想定した避難訓練を実施している。年2回の町内全域の地震避難訓練にも参加し、今後は大規模な原子力防災訓練が予定されている。玄関にはヘルメットや担架、災害袋などの防災用品が備えられ、緊急時に備えた車両も配置されている。災害時には近隣の企業による協力体制がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際は、ノックや声かけをし本人の了解を得て訪室するようにしている。個人情報、ワーカー室に保管し、破棄する際は、シュレッダーにかけるなど注意をはらっている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの状態を理解し、個人の尊厳を大切に考えている。接遇面や声かけの方法について、プライバシーに配慮した対応ができるようケアの質の向上に取り組んでいる。個人情報のある書類等は鍵付きの書庫に保管するなど慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、できるだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけも決めつけるような言葉使いはせず、本人が理解した上で、決めていただくようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴を毎日希望される方、食事をゆっくり食べられる方、時間がかかっても自力で移動される方など、一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは、家族に相談し持って来ていただいたり、購入したりしている。また、理・美容は訪問理容に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設のため、献立は栄養士が立てている。調理の準備や片付けは出来る方に手伝っていただいている。畑やプランターで出来た野菜と一緒に料理して、季節感を味わっていただいている。一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるように支援している。	
			(外部評価) 総合施設内の栄養士が献立を作成し、調理は事業所でユニットごとに行っている。下ごしらえや下膳等、利用者ができることは一緒に行い、職員も同じものを食べている。使い慣れた食器やランチョンマットを使用し、バーベキューやそうめん流し等をするなど、食事が利用者の楽しみにつながるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事量を把握している。食事量が減ってきている方には、食事形態を改善したり、主治医・栄養士・家族に相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行い預かっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ 誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗し た時でも、本人が傷つかないように配慮しながら対応 している。	
			(外部評価) 適切な排泄介助を行うために、一人ひとりの細かな排 泄のパターンや習慣を把握し、必要に応じて誘導表を 用い日常のケアに活かしている。異食行動が見られる 利用者は家族と相談し、夜間のみおむつを使用してい る。職員は見守りや声かけをさりげなく行い、転倒防 止などリスク面も考慮しながら排泄の自立に向けた支 援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方 には、水分摂取、散歩、運動を取り入れたり、主治医に 相談しながら、緩下剤でのコントロールを行ってい る。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前に、バイタルチェックを行い、体調の良い日は 本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっ ている。入浴できない日は、シャワー浴・足浴・清拭 等、利用者個々の状態に応じて支援している。夜間は 事故防止の観点から入浴は実施していない。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望を考慮 しながら支援している。入浴が苦手な利用者には、声 かけのタイミングや誘導方法を工夫したり、シャワー 浴や清拭、足浴など個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠 りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間眠れ ない方には、医師や家族と相談して、眠剤の服用を 行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬・服薬忘れのないように気をつけている。一人ひとり個別の袋に入れ、服薬時には袋の名前と中身を声に出して確認し、服薬していただいている。薬の変更時には、引継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫している。また、本人の要望を聞き、足湯や外食へも出かけている。	
			(外部評価) 事業所周辺を散歩したり、買い物等で戸外に出かけるなど日々の生活で外出できる機会を増やすよう支援している。地域の祭りへの参加や、近くの温泉での足浴、普段行けない遠方での外食等、個々の希望にそった支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で小額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が保管しているが、外出時には自分で払っていただけるように工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人の希望のある時に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者が集まるリビングでは、ソファを用意しテレビを観たりカラオケを楽しませ、利用者がお話し出来るようにしている。季節が分かるような草花を飾ったり、利用者と一緒に壁飾りを作成したりして、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 共用空間はゆったりとしたスペースが確保され、清掃が行き届き季節の草花が飾られている。家具等の配置も安全面に配慮されている。ユニット間は自由に行き来でき、利用者や家族が利用できる談話室や畳スペースが設けられている。窓からは宇和海を眺められ、中庭にはウッドデッキがあり外気浴や家庭菜園を楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビ前や談話室のソファで、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安らぎを得るような馴染みのものが、環境作りや生活をしていく上で欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が使い慣れた家具や家電、食器等を自由に持ち込むことができる。利用者は居室で草花を育てたり、趣味の音楽鑑賞を楽しむなど、自宅のように居心地よく過ごせるよう工夫を凝らしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々の能力や状況に合わせた、環境整備に作りに努めている。状態が変わった時には、その都度職員で話し合い、本人の不安・混乱材料を除けるよう支援している。</p>	